

功 績 概 要

- 1 学校名 岩国市立柱野小学校
- 2 所在地 山口県岩国市柱野1092-3
- 3 教職員数 8名
児童数 19名(3学級)

4 学校の環境

柱野は旧岩国市の西端に位置し、周囲を山に囲まれ、中央には御庄川の清流が流れるなど豊かな自然に恵まれている。しかしながら、山峡の地域から幾多の自然災害を経験している地域でもある。

現在、校区である師木野地区の人口は、約550人、300世帯であり、高齢化が進んでいる。岩国市の中心まで約7キロメートルと交通が便利なこともあって、住民の多くは市内や周辺の工場、会社、商店などに勤めている。市街地からも近く、欽明路道路が交通の動脈となっていることから、交通量は市街地並みに多い。

130余年の伝統がある柱野小学校の校区は、従来から地域の方々の物心両面にわたる絶大な協力があり、教育的関心も高い。こうした風土に支えられ、児童の教育環境は極めて整備されたものとなっている。

保護者の教育に関する意識も高く、全家庭がPTA役員となり、学校行事や教育活動に参加するなど、協力的である。

5 学校の教育方針

(1) 学校教育目標

「ふるさとを愛し 豊かな心を持ち たくましく生き抜く 柱野っ子の育成」

(2) めざす児童像

- ◎『進んで学び よく考える子』(学ぶ力・創る力)
- ◎『やさしく なかよくする子』(広い心・温かい心)
- ◎『元気に活動し やりぬく子』(燃える心・生き抜く力)

(3) めざす学校像

「子どもや保護者、地域そして教職員が誇りとする学校 『大好き！柱野小』」

(4) チャレンジ目標

- ◎あいさつをきちんとしよう
- ◎返事をきちんとしよう
- ◎はきものをきちんとそろえよう

(5) 学校経営の基本方針

- ① 学校や地域社会の固有な教育資源を活用し、連携して地域とともにある学校づくりを推進する。→コミュニティ・スクールの推進・充実(5年目)と進化、学校の応援団
- ② 児童や保護者・地域の願いに応えるために、教職員自らの幅広い研修と実践の充実を図る。→児童や保護者・地域への還元や貢献、新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育内容の充実、授業で勝負！

- ③ 教職員一人ひとりの特性と能力を生かし、和と信頼を基調とした協働体制を確立する。
→和して同ぜず（共通理解事項には徹底して同一歩調で取り組むが、その方法は教職員一人ひとりの特性を生かすこと）
- ④ 危機管理意識の高揚を図り、健康や安全に留意するとともに、落ち着いた学校づくりを推進する。→危機認知能力の育成と自分の命は自分で守ることの徹底
- ⑤ 豊かな学びを支える整備の充実を図り、常に美しい教育環境の整備に努める。→学習環境・言語環境・教育環境への取組
- ⑥ 学校評価を積極的に活用した学校経営や教育活動の改善を図る。→教職員による自己評価、保護者や児童による評価、保護者による授業評価・行事評価の充実

6 学校安全の方針・目標

(1) 目標

- ① 家族や地域の人に感謝し思いやりをもって、安全に貢献できる資質や能力を育む。
- ② 児童一人ひとりが自他の生命を尊重し、危険を予測して安全に行動できる能力を育む。
- ③ 家庭や地域と連携し、安心・安全な環境（学校・地域）づくりを行う。

(2) 運営の重点

- ① 安全ボランティアの方との交流会や子ども110番の家への訪問、敬老会・運動会でのふれあい等を通して、感謝の気持ちや思いやりの心を育てるとともに、家庭・地域の一員として自分にできることで周囲の人を支援しようとする態度を養う。
- ② 防犯教室、避難訓練、心肺蘇生講習会、集団下校の会でのKYT等体験活動を通して、危険予測や危機回避できる能力を育てる。
- ③ 計画的に情報発信したり参加型の行事を開催したりすることを通して、来校者数を増やし、家庭や地域に開かれた学校づくりに努める。
- ④ 緊急時のメール配信システムを活用して児童の安全確保に努めるとともに、地域の受信者を増やす。
- ⑤ 通学路等の安全点検を定期的に行うとともに、日常的に学校施設点検を行う。

7 学校安全の活動内容

(1) 安全教育について

- 教育課程に位置付けた安全指導の充実を図る。
 - ・交通安全指導と年間計画に沿った安全教育の実施・防災出前授業
 - ・心肺蘇生講習会への児童参加
- 特別活動、児童主体の活動で思いやりの心の育成・安全意識の高揚を図る。
 - ・集団登下校の実施
- 参加型参観日による保護者への啓発を行う。
 - ・性教育参観日 ・人権教育参観日 ・学校保健委員会
 - ・着衣泳と心肺蘇生講習会
- 危機管理マニュアル・応急対策計画・対処要領による訓練の実施と指導の充実を図る。
 - ・防犯教室 ・不審者・火災・地震対応避難訓練 ・地域との合同避難訓練
- 岩国市防災メールへの登録により、素早い対応・児童への指導を行う。
- 日常点検による児童の安全意識高揚と危機対応への実践力を高める。
 - ・日常点検（児童と教師目線で異常を発見） ・学校評価項目への位置付けと取組検証

【主な実践例】

- ・ 集団登下校－「交通安全の誓い」唱和、挨拶指導、地域住民の声を伝達
- ・ 全学年による自転車教室－駐在所、県警による指導
- ・ 防災出前授業－専門家活用、保護者参加

(2) 安全管理について

- 週に1回のいきいきアンケート提出と定期的教育相談により、児童の心身について全職員で把握するとともに、全員で指導に当たる。
- 全職員による学校施設点検と校内巡視チェックシートによる日々の点検を充実し、安心・安全な環境づくりに努める。
- 対処要領の確認と見直しをするとともに、即時対応できるように教室に常備する。

【主な実践例】

- ・ 対処要領の見直しと共通理解－カード化し教室掲示
- ・ 日々の点検－人・物のチェック体制、チェックシートの活用

(3) 組織活動について

- 保護者への啓発とPTAとの連携
 - ・ 参加型参観日を計画的に実施
 - ・ 児童・保護者・地域・教師による評価活動
- 地域との連携
 - ・ 安全ボランティア関係者の会
 - ・ 学校だより「しぎのっこ」の全戸配布
 - ・ ハザードマップ作成と全戸配布
 - ・ 「こども110番の家」訪問

【主な実践例】

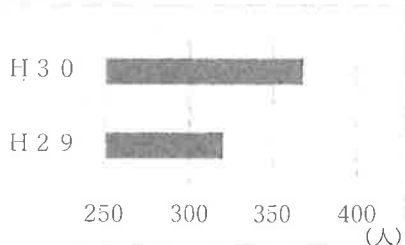
- ・ 情報発信の工夫－学校便りや自作ハザードマップの全戸配布、HP、メール配信システム
- ・ 参加型参観日と交流会－学校公開日の設定、三世代交流行事、安全ボランティアの会
- ・ 地域との連携－地域(市出張所、公民館、自治会連合会、老人会、駐在所、郵便局、社会福祉協議会、地区生徒指導連絡会他)との合同避難訓練

8 取組の成果

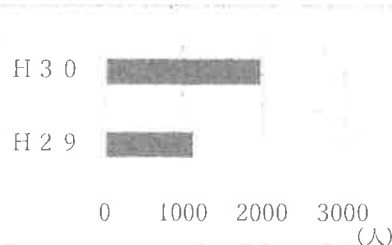
(1) メール配信及び情報発信

メール配信を全家庭に登録いただき、学校で集中管理できるシステムをとっている。また、情報は地域にも発信しており、緊急時には安全ボランティアの協力を得ることができるなど、更に連携強化を図っている。また、学校便りやハザードマップ、学校評価結果等を保護者だけでなく地域にも知らせることで、学校の取組に理解を求めるとともに、児童をより知ってもらい「安心・安全な学校」という信頼でつながった関係を構築することができている。地域からは、「学校便りを読むと、近所の子どもの様子がよく分かります。」「子どもの顔が見えるようになりました。」という声をいただいたり、安全ボランティア関係者の会や学校行事への参加者が確実に増えていたりしている。

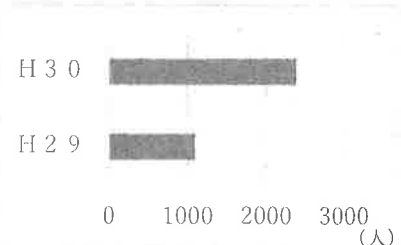
地域住民の授業参観者数の推移



地域住民の来校者数の推移



地域住民の見守り活動参加者数の推移



(やまぐち型地域連携教育調査より)

(2) 通学路点検とハザードマップ

児童にとって危険予測や危機回避能力を発揮すべきは、登下校や放課後、休日である。そこで、地域を知り危険が潜んでいないか、児童や保護者、地域の方々と共に通学路点検を行っている。児童や大人の目線で危険箇所を確認し、ハザードマップにまとめていく。写真とコメントを記入することで、児童はよりその箇所を意識し、家族と話す機会ともなる。本校は避難所に指定されており、第二次避難所へ進む道も示した。これは、ハザードマップをもとにし、専門家から得た情報である。これを、全戸に配布することで、岩国市が配布する資料と併せて、活用できるようにした。

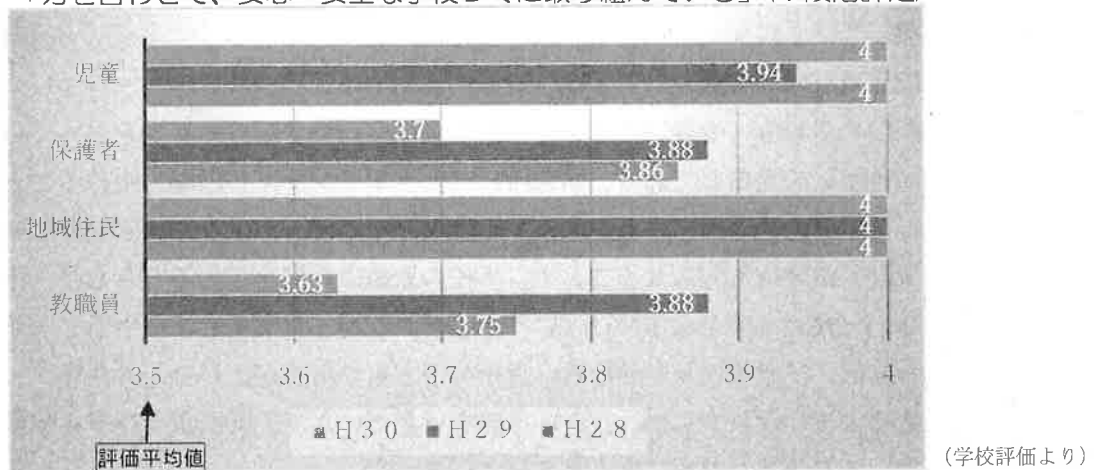
(3) 地域との連携・避難訓練

以前、山津波で柱野地区が大被害を受けた。その被害の怖さを忘れないように、また、被害者の霊を弔うために、地域では毎年盆踊りが開催されている。そこで、高齢者ばかりでなく、児童にも自然災害の本当の怖さを意識してもらうため、学校独自に行っていた避難訓練を、地域や公民館と協力し実施した。今後、本校体育館は避難所となっていることから、前述並の山津波が来たら体育館は水没するという古老の話から、自治会や関係機関と連携した防災避難訓練や防災キャンプを開催し、避難の方法を再確認したいと考えている。

(4) 交流と参加型参観日

保護者や地域の方々に見守られていることに感謝するとともに、児童一人ひとりにできることがあることを学ばせていきたいと考え、交流活動や参加型の参観日を設定した。学校からの手紙を直接届けたり、子ども110番の家を訪ねてお礼を伝えたりした。また、学校にも来ていただき、ふれあったり一緒に体験をしたりすることで、地域の方に児童を知ってもらい、また、児童自身が地域の人を知る機会となっている。安心・安全は学校だけでできるものではなく、より多くの方の目が必要である。「いつでも学校においでください。」と伝えているが、「何もないのに行きにくい。」とは、地域の方の弁である。より来校者数を増やし、地域とともにある学校にするためには、計画的に交流できる場をこれからも仕組んでいきたい。

「力を合わせて、安心・安全な学校づくりに取り組んでいる」(4段階評定)



9 表彰歴

平成15年 1月	学校安全優良校受賞	日本スポーツ振興センター
平成23年 1月	山口県学校環境衛生優良校	山口県薬剤師会
平成25年 1月	山口県学校保健・学校安全 優秀校受賞	山口県教育委員会
平成25年11月	文部科学大臣表彰「学校安全の部」受賞	
令和 元年 7月	安全功労者内閣総理大臣表彰 受賞「学校安全関係」	

※ 別添 表彰時の「内閣府大臣官房総務課」資料